

2008年度受託研究概要報告

# 日本・中国共同によるシニア服飾文化交流 「日中友好シニアファッションショー」実施のための企画及び作品制作

研究メンバー

安田雅子 デザイン学部ファッションデザイン学科准教授  
見寺貞子 デザイン学部ファッションデザイン学教授

委託者

NPO法人北九州市国際文化交流協会

研究目的及び内容

現在、高齢化が世界的規模で進む中、ファッションデザイン分野においても、今後増大すると予測されるシニア世代のデザイン研究が望まれている。本研究は、アジア地域の友好や活性化を踏まえて、日中のファッションデザイン分野の研究者およびデザイナーが「日中友好シニアファッションショー」を共同企画・実施することにより、日中のシニア世代がおしゃれで楽しい生活を実現する指針となることを目的とした。

2008年10月14日、中国人民对外友好協会(中国北京市)においてファッションデザイン学科の学生有志と北九州市・中国のデザイナーとのコラボレーションでファッションショーが開催された。

日本と中国の服飾文化交流のもと、日本側のテーマを「日本」とし、日本の文化や伝統を視点に、デザインした作品を本企画の「おとな服」ファッションを通じて提案した。

ファッションデザイン学科では、国内でのコラボレーションプロジェクトは、多々実施しているが、海外でのプロジェクトははじめてで、学生たちにとっても初めての体験である。

海外の地で、デザイナーという立場でファッションショーに参加すること、ショーには高齢者から中年までが参加し、自分たちの世代とは異なる人たちと取り組むこと、海外のモデルに自分の作品を着てもらい、言葉が通じない中、イメージを伝えること、スタッフやお客様はほとんどが中国人で、その中でコミュニケーションすることなどを経験し、困難を克服しながら完成させていった。この国際プロジェクトから学んだことを、今後のデザイン活動に活かしてほしい。北九州のデザイナーの方々、中国側関係者の温かい支援に心より感謝する。



写真1 トワル組み



写真2 パターン制作



写真3 和紙の服



写真4 縫製チェック



写真5 出番順検討



写真6 デザイナーとモデル（北京市）



写真7 藤井康太作品



写真8 ファッションショー参加メンバー



写真9 中国人民对外友好協会ホール

写真撮影：見寺貞子、安田雅子